葦毛通信



ミゾソバ

2026年11月11日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL：0532-56-6060
No. 191

1、2026年度モニタリング報告－3

1）Ⅰ地点西（ミズゴケ除去実験）

Ⅰ地点西はミズゴケが盛り上がり山のようになっていたところです。除去作業については葦毛通信 181 号で説明しましたが、ミズゴケとその下の黒色土を除去して裸地化しました。作業直後は細かなチャートが固くしまった礫層の上にチャートの小礫が転がっていた状態です。夏にはモウセンゴケ、ミミカキグサが開花し、秋にはシラタマホシクサがまばらに開花しました。これまでの実験で、裸地化した場合、１年目は春に開花する植物は間に合わないため、出現する植物はわずかですが、２・３年目になると多くの植物が発芽します。この実験区も来年の春には、新たな春の植物が開花すると思われます。



Ⅰ地点西作業後（2026 年 4 月 2 日）



Ⅰ地点西作業後６か月（2026 年 9 月 27 日）

2）Ⅰ地点北（旧水田再生）

Ⅰ地点北は 2024 年度に旧水田の表土を除去した実験区で、2025 年度に一段深く掘り下



Ⅰ地点北作業後（2026 年 4 月 2 日）



Ⅰ地点北作業後７か月（2026 年 10 月 27 日）

げたところです（葦毛通信 183 号参照)。ホタルイのようなイグサやカヤツリグサの仲間が若干出現しましたが、冠水したところからは植物の発芽はほとんどありません。ツチガエルやシュレーゲルアオガエル、水生昆虫は見られたので湿原内にもこのような環境は必要だと思います。しかし、埋土種子からの湿生植物の発芽を確認するためには、冠水しない環境の実験地を設定する必要があります。

３）N地点南西

Ｎ地点北はカガシラやミカワシンジュガヤの発芽を期待して裸地化した実験区です。予想通りカガシラは発芽しましたが、イノシシにかく乱されてしまいました（下右写真)。今年はイノシシのかく乱がひどく、葦毛湿原全体に見られ、過去最悪の状態です。





N地点南西作業後（2026 年 4 月 16 日）　N地点南西作業後６か月（2026 年 10 月 27 日）

４）O地点水路

Ｏ地点水路は旧水田の旧排水路として設置されたもので、大雨時の増水により下刻されて深くなっていました。そこで、土嚢と現地にあるチャートの礫を使って堰と堰の間が埋まり水路が浅くなるように４か所に堰を造りました。堰は魚等が遡上できるように下流側をなだらかにし、上流側を壁にした構造です。堰の大きさは幅約 70 ㎝×奥行約 70 ㎝×高さ約 60 ㎝程度です。予想通り堰の上流側には泥が溜まり底が浅くなっています。

今後は経過を観察して、堰と堰の間に順番に新たに堰を設置して水路全体の底上げを行い、深くなった水路を元に戻していく作業を行います。





O地点水路作業後（2026 年 4 月 15 日）　O地点水路作業後３か月（2023 年 8 月 24 日）

2、カヤネズミの巣

葦毛湿原には日本最小のネズミであるカヤネズミ（愛知県絶滅危惧Ⅱ類）が生息しています。植生回復作業をしていると地上１ｍ程のところにカヤネズミの巣を見つけることがあります。カヤネズミは里山で普通にみられる種だったようですが、里山の利用形態が変化する中で急速に数を減らし、葦毛湿原では現在は絶滅寸前のようです。

個体数減少の原因の一つとして越冬場所の減少が指摘されています。カヤネズミは里山で水田の稲刈りののちに設置される稲叢（いなむら）と呼ばれる稲わらを円筒状に積み上げたものの中で越冬していたとされています。現在はこれが無くなってしまい、越冬場所がなくなったことが減少の原因の一つとして指摘されています。

そこで、葦毛湿原ではカヤネズミの越冬場所を人工的に整備する目的で、刈り取った草を旧水田の土手の上に積み上げる実験をしました。下写真は春になってカヤネズミが越冬していたかを確認しているところです。下左写真は崩す前の盛り上がった草、右は上から少しずつ崩して内部を確認しているところです。

今回は、内部にカヤネズミが越冬している巣は確認できませんでしたが、内部は乾燥しており、越冬場所として利用可能な状態のように見えました。



カヤネズミの巣（2026 年 4 月 21 日）



巣を崩して内部を確認している。

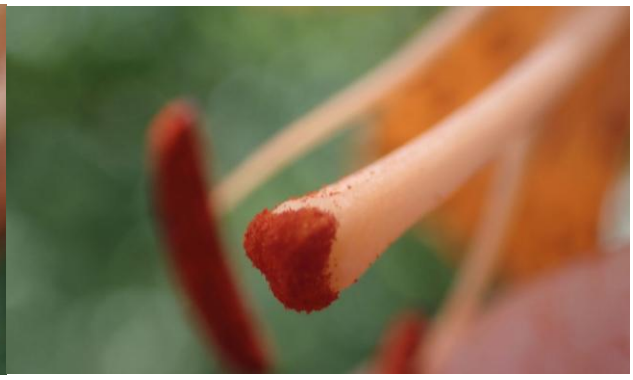
3、人工授粉

１）コオニユリ

コオニユリの人工授粉は順調に進んでいます。毎年、最初に開花する花は自分の花粉しかないので人工授粉をしても結実しませんでした。そこで、昨年人工授粉を行ったハケを



人工授粉前のメシベ



人工授粉後のメシベ

冷蔵庫で冷凍保存して、今年度最初に開花した花に人工授粉を行ったところ、受粉に成功し結実しました。コオニユリは受粉に成功すると花弁が落ち、メシベが落ちると果実が伸び上がり上向きになって太くなり熟していきます。下写真右は完熟して先端がわずかに開いています。先端だけ少し開くのは強風の時に遠くまで種子を飛ばすためのようです。



花弁落下後



伸び上がる果実



完熟した果実

２）ノカンゾウ

ノカンゾウは１日花で、朝日が昇ると開花し、夕方４時頃には閉じてしまいます。３ノ沢下流部のＤ地点で防鹿ネットを設置して保護しましたが復活しませんでした。ネット外



ノカンゾウ：ツボミ



ノカンゾウ：開花



ノカンゾウ：閉花

で数個体が残るのみで絶滅寸前の状態です。

今年度から人工授粉を始めましたが、結実したのは３輪のみで、うち２輪は虫に食べられ、残りの１輪も果実が大きくなる途中で落ちてしまいました。ノカンゾウは種子ができにくいようで、これが個体数が増えない原因かもしれません。



ノカンゾウ：メシベ



ノカンゾウ：オシベ